

第八回 塩津能の會 九州公演

令和4年2月19日(土)午後1時30分開演

(12時30分開場)

大濠公園能楽堂

福岡県福岡市中央区大濠公園1番5号 TEL 092-715-2155

<http://www.ohori-nougaku.jp>

【鑑賞券】

正面特別指定席/10,000円
 正面(指定席)/7,000円
 脇正面(指定席)/5,000円
 中正面(指定席)/4,000円
 正面(自由席)/6,000円
 脇正面(自由席)/4,000円
 中正面(自由席)/3,000円

【電話予約・お問合せ】

塩津能の會事務局

TEL/FAX:03-3330-6803

【オンラインチケット申し込み】

<http://kita-noh.com/ticket>

(クレジットカード決済・コンビニ購入受取が可能です。)

塩津能の會オフィシャルサイト

<http://www.shiotsu-noh.com>



詳しくはこちらへ→

主催：一般社団法人 塩津能の會

【会場案内】



■西鉄/バス 黒門バス停…下車徒歩3分 大濠公園バス停…下車徒歩3分
 ■地 下 鉄 大濠公園または唐人町…下車徒歩7分

能とは？

能とは舞(動き)と謡(歌)・セリフによる舞台演劇です。しかし、現代の演劇の大半がドキュメンタリー、つまり時間を圧縮した物語であるのに対し、能は逆ドキュメンタリー、衝撃的な一瞬の出来事を引き延ばしたものです。一瞬とは人の出会い、別れ、生死などをいい、こわらの背景にあるさまざまな物語を、観る人それぞれが心の中に描きます。これによって能は百人が観れば百通りの見方ができる舞台芸術です。つまり隣の人の感想が違ふことが常で、それが難解と言われることもです。しかしこれこそが能の持つ魅力です。

九州(福岡)での喜多流の歴史

大濠能楽堂を擁する福岡は喜多流にとって田縁の地です。流祖・喜多七太夫長能が黒田藩の庇護を受けたことで開流に繋がりました。また明治維新の動乱期にも喜多流の大先達、梅津只圓が黒田藩のお抱え能楽師として困難を乗り越え、福岡の能楽の隆盛を築きあげました。大濠公園能楽堂の中庭にあるのは只圓翁の胸像です。この由縁の地福岡に、またひとつ能楽・喜多流の新しい灯を燈すために、熊本ゆかりの能楽師塩津哲生・圭介が「塩津能の會」九州公演第八回目を催します。日本が世界に誇る伝統芸術、能楽の精華を、文化豊かに薫る福岡の地に、そして広く九州の地へとあらたに拡げることを目指して活動に取り組んでまいります。

文化継承！

和風建築が減少し、畳の部屋がないという住まいも多く見られ、正座という礼儀作法すら出来ない、知らない人達が増加している現状にはとても不安を感じます。昨今文化発展向上の声はありながら、伝統文化の衰退が目につきます。能界の先人達も能の魅力を後世に伝えようと、明治維新も敗戦の困窮時もひたすらにその道を全うして来られました。喜多流の九州内での催しが激減した現状を何とか再興し、先人の思いを継ぎ伝えることが現代に生きる私達の使命と思います。

第八回 塩津能の會 九州公演

おはなし

塩津 圭介

舞囃子

邯鄲

塩津 哲生

大鼓 白坂 保行
小鼓 幸 正佳

太鼓 吉谷 潔
笛 相原 一彦

地謡 渡辺 康喜
佐藤 陽

佐々木多門
金子敬一郎
内田 成信

狂言

寝音曲

シテ(太郎冠者) 野村 万禄

アド(主) 吉住 講

後見 吉良 博靖

休憩二十分

あらすじ 邯鄲

かんたん

古代中国、盧生という若者が、楚の国の羊飛山に、悟りを求めて旅に出ます。途中、邯鄲という町の宿で、女主人に勧められ、粟の飯が炊けるまでの間、「邯鄲の枕」という不思議な枕で一眠りする「こと」。

寝ていると、楚の皇帝の勅使が、盧生の前に現れます。不審に思いつつ、宮殿へ赴くとそこは、豪華絢爛、天に上ったと錯覚するほどでした。そこで盧生は栄華を極めており、在位五十年の祝宴が催されます。不老長寿の酒に、祝賀の舞、盧生も興に乗り、自ら舞います。すると昼夜、春夏秋冬が目まぐるしく移り変わり、気づけば宿の女主人が、粟の飯が炊けたと起こしに来て、盧生は目覚めます。すべては「一睡の、そして一炊の夢」だったので。

盧生はこの世は全て夢のように儚いという悟りを開きます。邯鄲の枕こそ、人生の師であると感謝し、望みを叶えて帰途につくのでした。

あらすじ 湯谷

遠江の国(現在の静岡県)、宿場の女主人である湯谷は、京の都の権力者、平宗盛に仕えています。ある時、湯谷のもとに故郷の母が病に伏せている由の手紙が届きます。宗盛に内容を読み聞かせ、故郷に帰りたいたいと願いますが、清水寺の花見に同行せざるを得ない状況でした。

春爛漫の中、花見をしても湯谷の心は故郷の母を想っています。さらに酒宴での舞の途中、急な時雨に、花も散ってゆきます。それを見て詠み上げた母を思う一首は、頑なな宗盛の心に届き、ようやく帰郷が許されます。

この能の最大の魅力は、明るい春の情景と沈んだ湯谷の心境という二極を際立たせたところです。花見の道すがらの美しい風景描写、そこに湯谷の心の揺れが、謡、舞として織り込まれています。

湯谷

ワキ平宗盛 江崎欽次朗

大鼓 白坂 保行
小鼓 幸 正佳

笛 相原 一彦

ワキツレ(宗盛の従者) 松本 義昭

後見 塩津 哲生
佐々木多門

地謡

工藤 義彦 金子敬一郎
谷 友矩 狩野 了一
佐藤 陽 長島 茂
渡辺 康喜 内田 成信

終了予定四時過頂



能「邯鄲」シテ(盧生) 塩津哲生 撮影/三上文規



能「湯谷」シテ(湯谷) 塩津哲生 撮影/三上文規



塩津 哲生



塩津 圭介

1945 喜多流職分塩津清人の長男 熊本市出身。
1950 「桜川」の子で初舞台。
1957 「狂政」にて初シテ。
1959 十五世喜多流宗家故喜多史師のもとへ内弟子修行のため上京。
1971 「道成寺」を抜き独立。
1986 日本能楽会会員、重要無形文化財総合指定。
1990 平成天皇即位の礼で「石橋」獅子を勤める。
2006 芸術選奨文部科学大臣賞受賞。
2007 観世若菜会能楽賞受賞。
2008 岩城寛孝文筆。
塩津能の會主宰。
札幌・東京・福岡・熊本・大牟田・竹田各地に哲門会主宰。

1984 喜多流能楽師塩津哲生の長男として東京に生れる。
1987 喜多流例會能にて「初子方」隔田川」を勤める。
1997 大分県竹田市塩津清人記念能舞台落成能にて初シテ「田村」を勤める。
2004 若者の若者による、若者のための能「若者能」をたらあげ以後毎年公演。
2008 東京学芸大学教育学部卒業。
2009 APU立命館アジア太平洋大学非常勤講師に就任。
2015 喜多流青年能にて「猿々乱」を抜き、独立。
2018 塩津能の會にて「石橋」獅子を抜き、独立。
福岡・熊本・竹田・行橋・大分・東京、札幌、帯広にて一般の方向けの稽古を毎月開催、指導にあたる。